

きずな 2017

9月も終わりとなり、学習発表会や学校祭など、学校行事も一段落した頃ではないでしょうか。また、14日・15日に洞爺湖温泉を会場におこなわれた全道事務研には、名寄ブロックから発表者として本郷さん、分科会司会者として前畑さんをはじめ、多くの上事協会員が参加しました。参加されたみなさん、大変お疲れ様でした。

さて、今回の「きずな」は、夏季休業中の上川研修センター講座「学校事務実務」(8月1日～2日)と「ふらのフォーラム」(7月27日：札幌市)に参加された方からの感想をいただきましたのでご覧ください。全道事務研の参加報告については、第5号に掲載します。



上川研修センター講座

「学校事務実務」 報告

幌加内町立幌加内中学校 原田 和茂 (運営)

8月1日、2日の2日間の日程で、上川教育研修センター講座「学校事務実務」が開催されました。

上事協と旭事協が隔年で上川研修センターから事業委託を受けて開催されている「学校事務実務」研修講座ですが、今年度は旭事協が企画・運営を担当しました。50名が参加し、半数近くが新採用者というフレッシュな研修講座となりました。共済組合の担当者による講義や小グループに分かれてのワールドカフェ方式の講義、事務の計画表を作る作業を行った提言や名寄ブロックの全道レポート発表、学校事務職員の職務を考える提言など、盛りだくさんの講義・提言でした。分散会では、参加者の学校の事務運営計画を持ち寄り、交流を行いました。全体的に経験年数の少ない事務職員向けの内容になりましたが、ベテランの方もアドバイスを送ったりしており、大変良い雰囲気です。2日間を終えることができました。

上川管内公立小中学校事務職員協議会

発行者 広報担当 柳原 拓也 (富良野・東小)

第4号 2017, 9, 29



センター講座の様子

鷹栖町立鷹栖小学校 坂本 日露野 (受講者)

研修センター講座に2日間参加しました。

分散会では、AとBふたつのグループに分かれ、各校の運営計画について交流しました。

旭川と上川の事務職員が混ざって交流する機会は少ないので、普段は聞けないお話しも多々あり、とても勉強になりました。また、若手とベテランの意見交流も活発に行われ、おもしろい分散会となりました。

今回の研修で、講師の方のお話しや周りの事務職員との交流から、仕事について改めて考えることができ、充実した2日間となりました。



富良野市立扇山小学校 今村 凌太 (受講者)

2日間という短い期間の中で1日目の「マネジメントと学校」の講義に始まり、2日目の「研究協議会」が終わるまでとても充実した研修を受講することができました。

普段あまり交流することができない旭川管内の先輩・同期事務職員の方々とお話しをする機会をいただけたことがありがたかったことはもちろん、日々の仕事の中であまり目を通していなかった学校実務要覧をわかりやすくかいつまんだ資料を作成して講義を下さった原田さんの講義や、自分次第でどの様な仕事も楽しくすることができるかと教えて下さった野島さんの講義など自分にとって成長につながる研修となりました。

ありがとうございました。

ふらのフォーラム 報告

剣淵町立剣淵中学校 盛多 隆

“当たり年”とはこういうことを言うのだろうか？

中体連地区大会と管内大会の当番校、夏休み前から始まった工事（トイレ・駐車場側溝・自転車置き場・PC機器類の総入替・放送スピーカー設置）、そして各種研修。

ふらのフォーラム、研修センター講座、土別ブロック全道研レポート検討委員会、3町事務職員交流研修会。事務局業務はレポート検討委員会と3町交流研だけでしたが、支会教研レポート作成もあり、ある意味充実した夏休みでした。長年携わったスキー少年団活動もしばらくご無沙汰してます。

ご無沙汰といえば、前述の「ふらのフォーラム」の参加も栗山町以来なので、おそらく3～4年はご無沙汰でした。しかし、いつ聞いても末富先生の話は分かりやすく面白いです！今回も軽妙なトークに引き込まれました。そしてもう一方の篠原先生。若手でこれからの研究者ですが、中教審答申「チーム学校」についての考察に共感するところが多々ありました。午後は常陸前会長の司会進行によるパネルディスカッション。常陸前会長の絶妙な進行に大いに盛り上がり、時間内で終わらないというアクシデントも“ノープロブレム！”

さて、末富先生の話で特に印象に残ったものを若干拾ってみました。

○東京都の調査から、貧困層の子どもは小3までにその半数が「授業が分からなくなった」。「小4の壁」説の崩壊。同様に一般層の子どもにも当てはまる。家庭学習のサポート対策が必要。

○大阪府の調査では、相対的貧困ラインより下位世帯の15～16%が就学援助未受給。制度を知らない、書類が理解できない、手続きが分からない、子どもが不登校等の理由が想定。

○「つかさどる」で専門職の意味合いが相当重くなる。専門職団体は必ず固有の倫理綱領を備えている。学校事務職員のそれは、どういうものでどこに基準が置かれているのか？「子どもの貧困対策」と「教育支援」の未来像、子どもの政策全般の中で教育の在り方を含めて考えてほしい。

○今起きている課題だけに対応するのではなく、子ども若者支援をどうやって体系立ててするかという近末

来のビジョンが必要。

○「教育支援」は単独では成り立たないもので、家庭や子ども若者の生活基盤の保障なしには成り立たない。どんなに学校が頑張っても子どもを立て直しても帰宅して親から虐待を受けていたらまたゼロに戻る。生活基盤保障をもとにしつつ、全ての保育教育機関を子どもの課題に手厚い学校プラットフォーム化が必要。

この話を聞くまで子どもの貧困対策を単に人権保障（子どもの学習権保障）の一つと捉えていました。末富先生の資料にもあるように、子どもの貧困対策が子どもの未来を創ることに繋がり、私たち事務職員と社会（地域）とを繋ぐことに通じていることが理解できました。研修の収穫です！

『子どもの貧困対策は私たちの生きる社会と明日を「子ども」という切り口から考えるアプローチである』【資料「子どもの貧困対策と教育支援の未来像 P24」】



富良野市立麓郷小中学校 長岡 典枝

昨年、初めて参加した富良野フォーラム。参加するまでは、「大学の先生のお話なんて私には理解できないのでは・・・」とっていました。が、講師の先生方はとてもわかりやすくききやすいお話をされる方でした。今年も是非そんなお話を聞きたい！と思い、はるばる札幌まで行ってまいりました。

会場は、「かでる2・7」。参加者は80名で、うち上川からは20名ほどでしたのでブロック研や管内研では顔を会わすことのない方々がたくさんいらっしゃいました。

講演1では昨年に引き続き日本大学文理学部教授の末富先生から「子どもの貧困対策における教育支援の未来像」と題したお話を聞きました。国や都道府県が行っている子どもの貧困対策の実態や問題点、生活困窮者の実態、また、生活困窮者に支援を行っている財団法人があることなどの内容でした。

講演2では北大大学院教育学研究院准教授の篠原先生から「中教審答申チーム学校の分析と課題」との演

題で、チームとしての学校のあり方や改善方策についてでした。

末富先生も篠原先生も具体的な事例を挙げながら、文字にしてしまうと堅い内容も、柔らかくわかりやすい言葉で、時折笑いも交えての講演でしたので時間が経つのがあっという間でした。

パネルディスカッションでは各市町村での就学援助の状況交流や、事務職員の職務が「事務をつかさどる」になったことへの意見交流が行われました。

暑い日でしたので、クーラーは入っているもの参加者皆さんの熱気で会場内は若干暑かったですが、事務職員を取り巻く環境を知り、また、子どもの貧困対策のために本当に必要なことは何なのか、や、チームとしての学校のこれからについて考える良い機会となりました。

講演する末富教授



南富良野町立南富良野中学校 坂本 大和
富良野フォーラムでは、今まで仕事に追われまだゆっくり自分の周りを見れていない自分に言われてるようなことばかりで、一つ一つが勉強になりました。

特に教師側の目線で、自分の学校ではチーム学校としてスローガンだけで終わらず専門職としっかりタッグを組んで学校づくりができてきているのか？そう問われた時に、自分はまだ先生方としっかりと連携が取れているとは思えませんでした。

そこで連携をとるために、先生方の教育環境整備を整えることが大事だと研修を通して学びました。

教育規定の改定の意識の低さも自分に見られたので改めて自覚して職務に取り組みたいと思います。



パネルディスカッションの様子

上事協と旭事協が隔年で上川研修センターから事業委託を受けて開催されている「学校事務実務」研修講座ですが、今年度は旭事協が企画・運営を担当しました。

参加者から、たくさんの学びや気づきを得られたとの感想を得ることができ、運営を務めた役員も報われたことと思います。

次年度も同時期に開催される予定です。上事協が企画・運営担当です。みなさんの積極的な参加をお待ちしております！



センター講座より

